

李氏朝鮮時代の仏教、儒教、 および仏像等の盗難問題について、

①

李氏朝鮮時代(1392年から1910年まで続いた朝鮮半島の最後の王朝。李朝ともいう。高麗の次の王朝)に入ると、一転して儒教が国教となったため、仏教は徹底的に弾圧された。所謂「斥仏揚儒(せきぶつようじゅ)」(仏教を排斥し、儒教を信奉する)が国策として決定したのである。李朝時代において、代を重ねるごとに、仏教に対する締め付けは厳しさを増していき、儒教唯一絶対主義が朝鮮を覆っていく事となった。

初期には王族の保護を受けたが、士林派の集権で弾圧が強化された。僧は都の漢陽に入ることを禁止された上、賤民階級に身分を落とされた。

また、全国に1万以上もあった寺院は、国家的に保護を受けるべきものが242寺に限定され、その他の寺院は所有地と奴婢を没収され、また多くが破壊された。

さらに、第3代太宗の時代の1407年(太宗7年)には、12宗が7宗88寺院(曹溪宗・天台宗・摠南宗・華嚴宗・慈恩宗・中神宗・始興宗)に、次の世宗の治世(世宗6年・1424年)にはその7宗派も曹溪宗・天台宗・摠南宗を統合して禅宗、華嚴宗・慈恩宗・中神宗・始興宗を統合して教宗と、2宗派にまとめられた。

88の寺院は、禅宗18寺院・教宗18寺院の計36寺院を残し廃寺となり、この時期に朝鮮半島の仏教は著しく衰退した。

——wikipedia等より

②

日本の長崎県対馬市という所の神社から2体の仏像と仏教経典が盗まれました。

仏像1体は国指定の重要文化財。

もう1体は長崎県指定の有形文化財。

数十億円の価値ある国宝というだけでなく、600年間という長い間多くの人々の信仰の対象として、

大事に保管されていたものでした。

この一件だけではありません。日本の様々な場所から貴重な文化財が盗難の被害に遭っています。

2013年1月22日仏像2体が韓国南部、慶尚南道・馬山(マサン)の古い冷凍倉庫に隠されているのが見つかりましたが、仏教経典については、捕まった南コリアン窃盗団によると「犯行直後に山に捨てた」と供述していますが、まだ見つかっていません。

さて無事に見つかった仏像、返ってくるかと思いきや、一向に返ってきません。何故でしょうか？

通常、ユネスコ「文化財不法輸出入禁止条約」（南コリアンも加盟している）などに基づき、不法に国外に流出した文化財が見つければ、速やかに返還されます。ところが、南コリアンがこれを拒否したのです。

その理由は「仏像の1体は8世紀の統一新羅時代に作製されたと推定され、もう1体は高麗時代の1330年に韓国中部、瑞山（ソサン）の浮石寺（プクソクサ）で作られたと仏像内部の発願文に記されている。日本（倭寇）に略奪された疑いが強く、日本に流出した経緯が明らかになるまで返すべきでない。」とし、さらに南コリアンは日本側が強奪したという根拠を示さずただ「日本が正当に取得したことを証明しなければならない」と主張しているのです。

日本では、これらの仏像がどのように伝わって来たかと主張しているのでしょうか。

伝承によると、盗難にあった仏像は李氏朝鮮時代、朝鮮半島に吹き荒れた仏教弾圧から逃れるため、対馬に持ち込まれたということです。

それらの仏像は現在に至るまで、信心深い対馬の各集落の寺社や島民たちの手で大切に守られてきたのだと。

事実、朝鮮半島では仏教が盛んになるのと同時に儒教も盛んになり、共存していましたが、徐々に仏教を排斥し、儒教を信奉する国策がとられるようになりました。

1392年以降の李氏朝鮮時代において、代を重ねるごとに、仏教に対する締め付けは厳しさを増していきました。李朝三代目の国王太宗の時には、仏教大弾圧が断行され、高麗朝の時代に1万以上の寺院がありましたが、この時期に何と242寺までに減らし、さらに寺院に属する、土地や奴隷などを続々と没収していったのです。

また、次の国王世宗の時には、全宗派を統合し、それぞれ18寺院だけを残して、残りの寺を廢寺としました。

李朝十一代目の中宗の時には、国中の仏像を没収し、溶解した上で武器をつくるなどして次々と破壊していたのです。

例え日本の倭寇が持ってきたとしても、その後浮石寺が返せなど日本側に対して伝えたという記録の一つも両国には残っていません。

倭寇が密貿易で盗人の朝鮮人から当仏像を購入した可能性もあります。また、日本側の主張のように儒教家が仏教を排斥した時に、持ち出された可能性もあります。またまた、儒教家から排斥され、スポンサーをなくした浮石寺の坊主が、生活のため観音様を売り払った可能性すらあります。豊臣秀吉の朝鮮征伐の時に、対馬の将官が、朝鮮人から有り難く頂いたのかもしれませんが。つまり500年も700年も前の経緯は、記録を捏造しない限り、誰も何も判らないということなのです。

——ブログ「日本人よ立ち上がれ、歴史の真実」～吉田茂の書簡から見えるもの >より引用